

■平成31年2月5日に第6回検討会WGを開催

主な検討内容、意見

○第4章について

□：検討内容 →：委員からの意見

- 使用年数分布については、前回検討会及び検討会WGでの意見を踏まえ、コメントを追加・修正。
- 劣化状況評価基準(参考例)については、前回検討会及び検討会WGでの意見を踏まえ、コメント及び写真を追加・修正。
- 中長期的な修繕・改修計画の策定におけるコストの平準化等の考え方について追記

→第4章(1)部位別の使用年数分布グラフにおいて大事なものは、改修判断時と着工時に開きがあることであり、このインターバルをいかにして近づけるかである。
前回検討会で示された「平成17年版建築物のライフサイクルコスト」と、「平成31年版建築物のライフサイクルコスト」は、前提条件が異なるため、本報告書では、参考文献として取扱うほうがよい。

○事例について

- 施設の長寿命化を図るために有効な取組事例として、新たに8事例を追加。
主な追加事例は次のとおり。

- ・保有施設の総量最適化の実施事例として、東北大学の「新たな研究分野の確立に向けた施設の改修」事例、北見工業大学の「スペース再配分により学内ニーズに応えたスペースを創出」事例を追加
- ・維持管理費用の確保事例として、東京工業大学の「スペースチャージ制導入による維持管理費用の確保」事例、三重大学の「老朽施設・設備を計画的に省エネ改修する仕組みの構築」事例を追加
- ・施設の点検や老朽化の実態把握を戦略的に実施している事例として、群馬大学の「空調機の簡易点検(目視点検)を利用者にて実施」事例を追加
- ・中長期的な修繕・改修計画の策定におけるコストの平準化等の取組事例として、宇都宮大学の「残存不具合率の指標を用いて、長期的なコストを平準化」した事例を追加

等

また、前回検討会及び検討会WGでの意見を踏まえ、事例を一部修正。

○その他(委員からの意見)

- 本報告書における修繕、改修、更新等の用語の定義があいまい。国土交通省、日本建築学会、参考文献(「建築物のライフサイクルコスト」)それぞれにおいて用語の定義は若干異なるため、本報告書における用語の定義を見直した方がよい。
- 本報告書全体としてのスタンスを記載すべき。

備考

■平成31年2月28日～3月6日に上記意見を踏まえた修正案をWG委員に照会